



けいれんをおこしたとき

けいれんとは、脳の異常興奮状態により、からだ全体やからだの一部がつっぱったり、ピクピクしたり、力が抜けた状態になったり、呼びかけをしても反応がなかったりすることをいいます。また、高熱を伴うけいれんの多くは、心配のない熱性けいれんで、生後6か月から5歳頃までに起こります。


一般的に熱性けいれんの動きと硬直は、左右とも同じようなからだの動きでピクピクしたり硬くなります。

すでに診断がついているけいれん発作や、けいれん後にすやすや眠ってしまい、その後いつもと変わらない状態であれば、様子を見て通常の診療時間内に受診しましょう。

ただし、症状が大きく変わった場合は医療機関を受診してください。

こんなときは、医療機関を受診しましょう。

- 初めてのけいれん。
- 生後6か月以下のけいれん。
- 6歳以上のけいれん。
- けいれん時、体温が38℃以下である。
- けいれんに左右差がある。
- おう吐、おもらしを伴う。
- 頭部の打撲後に起こったけいれん。
- 何度も繰り返しけいれんがある。

症状の相談や、夜間・休日に受診できる医療機関の案内
ふなばし健康ダイヤル 24(40ページ参照)  0120-2784-37

こんなときは、救急車を呼びましょう。

- けいれんが5分以上続く。
- けいれんが治まっても意識がはっきりしない。
- 唇の色が紫色で呼吸が浅い。
- からだの動きが左右で明らかにちがう。



ワンポイントアドバイス



抱きしめたり、ゆすったり、たたいたり、大声で声かけをしないようにしましょう。



呼吸しやすいように衣服をゆるめ、平らなところに寝かせましょう。



けいれんの持続時間を計りましょう。けいれんが治まったら必ず体温を測っておきましょう。



飲物や薬を与えないようにしましょう。



舌をかまないようにと口の中にもものを入れるのは危険です。



無理に口をあけないようにしましょう。